ミュージアム コレクションⅢ 美術家たちの沿線物語 展 関連レクチャー

# 〖玉川 江戸の名勝 集う美術家たち〗 2021年3月28日 24人参加

講師 関 宗里（美術研究家） 聞き手 池尻豪介(世田谷美術館学芸員)

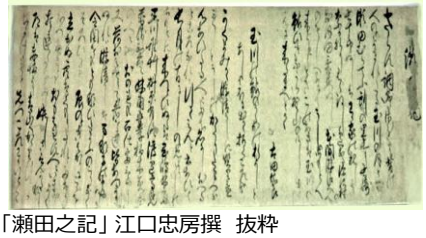
世田谷区の文化事業部門を長い間担当されて、世田谷美術館の設立にも当初から関わられた関 宗里氏による講演「玉川 江戸の名勝 集う美術家たち」が開催されました。これは世田谷美術館「ミュージアム コレクションⅢ 美術家たちの沿線物語 田園都市線・世田谷線篇」展（担当 池尻豪介学芸員）に関連して企画されたもので、関氏の用意された豊富な図版と詳細な解説と共に池尻学芸員との興味深い対話を交えた講演でした。

## 【玉川は江戸の景勝地】

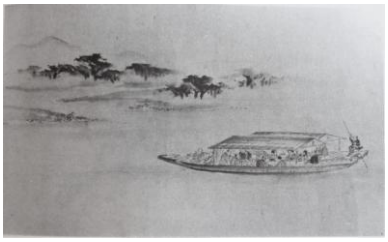
「武陽玉川八景之図」

寛政3年（1791年）に「武陽玉川八景之図」が江戸馬喰町の森屋治兵衛が版元となって刊行されて大変に人気を博した錦絵となった。
これにより江戸近郊の名勝地として玉川界隈の美しい風物は更に人気になり、富士の眺めや玉川の舟遊び、鮎など川魚料理の料亭もでき江戸有数の遊興の地になる。

玉川八景「瀬田之記」より『世田谷地誌集』所収（世田谷区立郷土資料館編 1985年）


「瀬田之記」江口忠房撰 抜粋

嘉永３年（1850年）9月10日の辰の刻に江戸の歌人の本間 游清、 江口忠房など文人達１３人が日本橋を出発し現在の世田谷を横断して瀬田村名主の長崎長十郎宅を訪ねる二泊三日の吟行旅に出る。江口忠房撰の「瀬田之記」には青山、麻布、広尾、渋谷、三軒茶屋、新町、用賀を経て瀬田に至る旅の様子が描かれる。二日目は瀬田の高台の行善寺から行善寺八景の歌を詠み玉川で屋形船の舟遊びをして夜は三軒茶屋に泊まる。三日目は目黒の富士塚に上がって富士山を眺め夕刻に白金を通り夜の江戸に帰着した。


玉川の屋形船「瀬田之記」より『世田谷地誌集』所収（世田谷区立郷土資料館編 1985年）

## 【玉川電車の開通と沿線の発展】

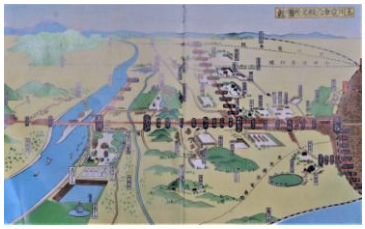
“玉電” は、明治40年に玉川線（渋谷⇔玉川）、大正14年に下高井戸線（三軒茶屋⇔下高井戸）が開通。
明治、大正、昭和を通して世田谷には多くの美術家、作家等が居住し様々な交流が生れて現在に繋がっている。

竹下夢二は松原にアトリエ付き邸宅を建て「少年山荘」と名付けた。「みんな来てごらん、新しい電車が走るよ」と開通した玉川電車を家族で眺める
『出帆（下巻）』（アオイ書房 1940年）より

明治40年玉川電車開通

緑川廣太郎（左）と高橋秀（右）

裏手より見た旧向井潤吉邸1937年頃


「夏の玉川 渋谷玉川電車」玉川電気鉄道（株）1930－1932年頃 世田谷区立郷土資料館蔵

高橋秀の瀬田のアトリエ